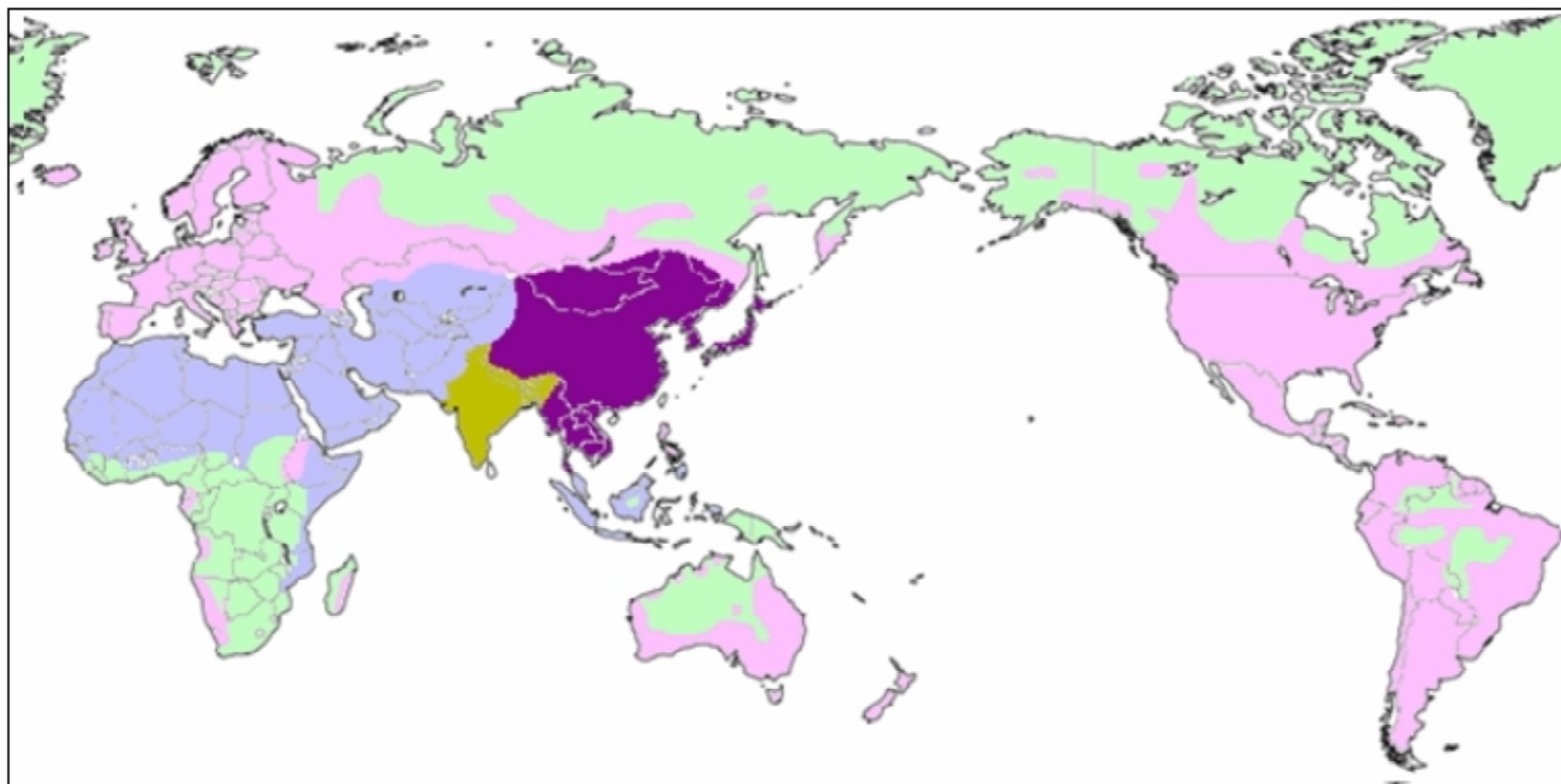


世界のさまざまな宗教



イスラム教

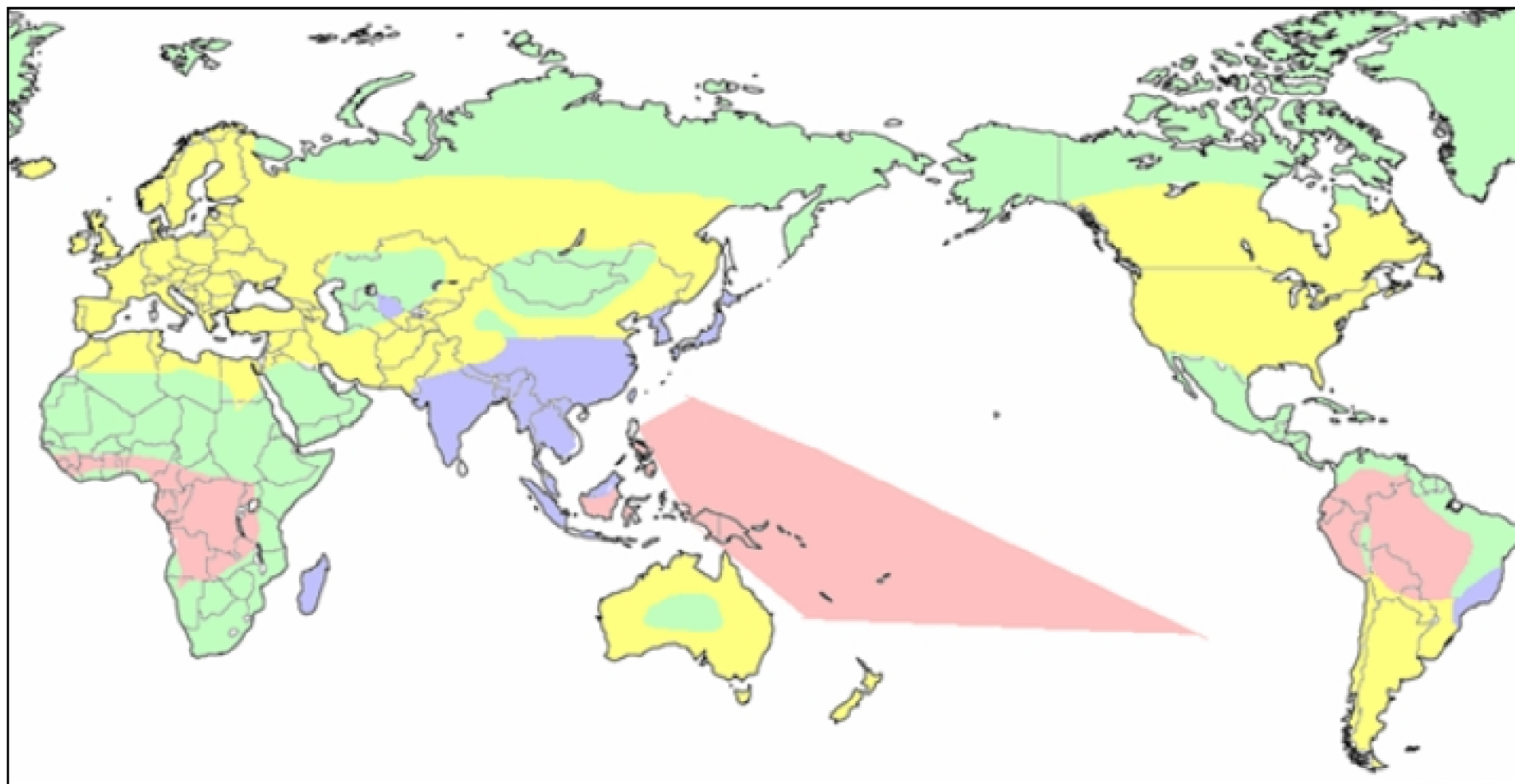
キリスト教

仏教

ヒンドゥー教

その他

世界のさまざまな主食



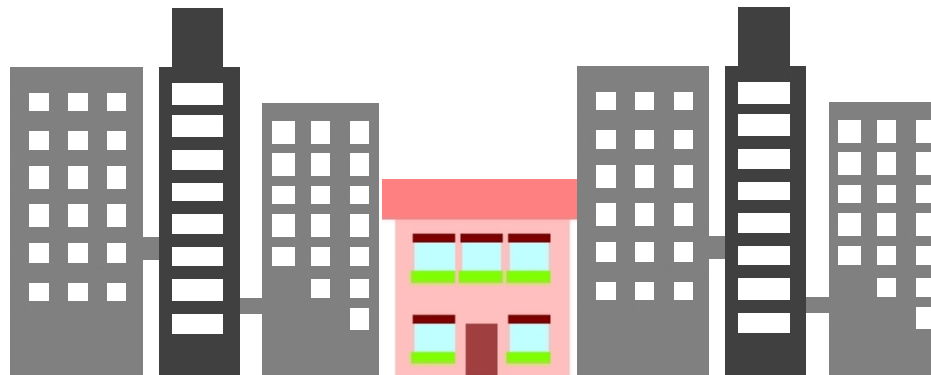
いも

米

麦類

日本の住居

- ★ 日本の家づくりは、むかしから木を用いて行われてきた。
- 日本各地域の自然環境^{かんきょう}や産業を背景にして、さまざまな特色ある民家や町なみが発達した。
- 現代は、コンクリートや金属・化学工業製品を用いた家づくりがさかんになり、都市化がすすみ、伝統的な民家や町なみが少なくなっている。
- 日本の都市の住居は、欧米^{おうべい}の住居にくらべると、かなりせまいので、うさぎ小屋^{うさぎこや}のようだといわれたことがある。





日本の衣服

- ★ 日本では、むかしから絹^{あさ}や麻^{ころも}が衣服の材料として使われてきた。江戸時代^{えど}になると、それらにかわって、木綿^{もめん}が急速に広まり、絹は高級品としてあつかわれた。
- ・ 季節によって気温^{しつど}や湿度^{しつど}が大きく異なるので、衣服^{いふく}もそれに応じてさまざ衣^{ころも}がえの工夫^{くふう}がなされ、6月と10月には衣^{ころも}がえをする学校・職場などがある。
 - ・ 現代では、普段^{ふだん}はさまざまなタイプの洋服^{ようふく}を着て生活し、伝統的な和服^{わふく}は、正月やまつり・婚礼^{こんれい}などの特別な時にのみ着ることがほとんどである。



日本人の食生活 (1)

★ 日本で、主食として最も多く食べられているのは、**米**である。

- ところが、1人1日あたりの消費量を多い順に並べると、

野菜 > **牛乳・乳製品** > **米**

となり、さまざまな種類の食品が食卓しょくたくをかざっている。

- 旧厚生省の1996年国民栄養調査によると、日本人は**脂肪**し ぼうを取りすぎており、その反面、**カルシウム**が必要量を下回っている。
- これは、**外食**と加工食品きよくたんへの極端な依存い ぞんの結果だと言える



日本人の食生活 (2)

- ★ 日本は、食料品の輸入の割合が大きい。
- ★ 1人1日あたりの^{ぎよ かい る い}魚介類の消費量は世界有数で、また、水産物の輸入額も世界第1位である。

食用農産物の自給率

米	95%
小麦	14
だいず	4
果実	44
肉類	54
鶏卵	96
牛乳・乳製品	69

(2003年概算)

1人1日あたりの魚介類の消費量

アイスランド	249g
日本	187
大韓民国	185
ノルウェー	150
スペイン	131

(2002年)

水産物の輸入

日本	139億ドル
アメリカ合衆国	102
スペイン	39
フランス	32
イタリア	29

(2002年)

<農林水産省ほか調べ>



日本の職場

★ 多くの職場で、**労働時間の短縮**（いわゆる**時短**）が進んでいる。また、収入増よりも時短を優先する労働者が大幅に増えている。

- 女性の職場への進出が活発に行われており、非農林業の職場では、**働く女性の66.7%**を^{きこんしゃ}既婚者がしめている。

<月間実労働時間>

1970年	186.6時間/月
1980年	175.7
1990年	171.0
2000年	154.9

(規模30人以上)

<女性雇用者の構成>

1962年 802万人	未婚者 55.3%	既婚者 44.7%
1999年 2101万人	未婚者 33.3%	既婚者 66.7%

(厚生労働省ほか調べ)

日本人の生活

★ 労働時間の短縮や女性の職場進出などを背景にして、日本人の生活様式が、従来の**仕事重視**から、夜型で**趣味・レジャー重視**の形へと変化しつつある。

- 日本人の休みのすごし方は、テレビ・ラジオや休養といった受け身的なものが多く、また、他の人たちと同じことを楽しむといった**レジャーの一極化**が見られる。
- 正月、ゴールデンウィーク、夏休みなどの**休みの一時期集中**で、交通機関や宿泊施設などは、どこも混雑する。





日本と諸外国との交流

- ★ 日本の急速な経済発展によって、日本の貿易黒字が多すぎるので、諸外国との間でさまざまな貿易摩擦まさつがおこっている。
- 日本の賃金が高いので、日本へ働きにやってくる外国人労働者ろうどうしやが多くなっている。
 - 日本から海外へ留学したり、仕事で出かけたり、観光に出かけたりすることが多くなった。
 - ものという経済的な側面だけでの国際化ではなく、人との交流という側面での国際化が重要である。

